

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	6月	16日	(記入者) 山口 恵一	
取材参加者	井本	西田	宮本	本井	山口
	渡辺				
取材対象先	奈良市：阿弥陀寺の木造十一面観音坐像				

所在地	奈良市月ヶ瀬石打2443-1				
所有者（取材対応者）名	所有者：阿弥陀寺 (取材対応は檀家総代 ***様) (個人情報守秘)			連絡先 *** PCアドレス	
	取材申込				
申込先・行政名など：阿弥陀寺檀家総代 ***様					
市町村指定文化財	彫刻 1 軀	木造十一面観音坐像 1980（昭和55）年12月1日 旧月ヶ瀬村指定			
	建造物 棟	名称（指定年月日）			
文化財指定理由	旧月ヶ瀬村指定文化財である。像高52.3cm、顔・胴体・両腕は桜材の一木造り、一部桧材で頭部の化仏も後補であるが、量感があり平安前期の特質を備え、本村最古の仏像であること。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	防火設備としては消火器がある。 地元の方が中心となって消防団を結成されている。消防署としては尾山分署があり、消防車及び救急車も常駐している。	RC（鉄筋コンクリート）造の建物であり、有事の際の体制もできていることから問題ないと思われる。
被害対策	被害の有無、対策など	記入者の感想
	周辺には鹿やイノシシはいるが、獣害はないとのこと。	問題ないと思われる。
保存～継承へ 苦労と今後の課題と対策	石打地区には現在120軒程度の方が居住されており、そのうち80軒程度の方が「阿弥陀寺」の檀家になっておられ、お寺の行事も毎月あり（中にはひと月に複数回ある行事もある）、また4名の代表者にて8年間檀家総代を務めることになっているとのこと。***檀家総代様からは、個人的な考えと言われていたが、お寺の行事は日程が決まっているため、勤務年令の高齢化に伴い仕事との調整に苦労し保存継承していくことへの難しさがあるのではと言われていた。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

この地区の自治会活動、檀家の皆様が一体となり地区を守りまた地域を守っておられることが、取材を通して感じられた。皆様方の日頃からの活動及び努力に感服した。

市町村指定文化財取材票 《裏》

取材日	2024年	6月	16日	(記入者) 山口恵一	
取材参加者	井本	西田	宮本	本井	山口
	渡辺				
取材対象先	奈良市：阿弥陀寺の木造十一面観音坐像				

※ 写真撮影許可済

文化財指定名 木造十一面観音坐像

文化財（十一面観音坐像（全形と拡大））



本尊に向かって左側

本堂内部（正面）



本堂建物（正面）



堂内の仏像および境内の碑



阿弥陀如来坐像（中央の本尊）



大日如来坐像(本尊に向かって右側)



日待講板碑（旧月ヶ瀬村指定文化財）

文化財の由緒及び特徴

本像は約1000年ほど前のものと推定され、「観音寺」の本尊であった可能性があり、旧月ヶ瀬村における仏像のうちでも最古に属するもの。

顔・胴体・両腕は一木をもって作られており、材質は桜材で珍しい。また、十一面観音菩薩は立像が多いなかで坐像姿の像も珍しく、その像の顔は正面を向き、左手屈肘宝瓶を持ち、右手屈肘五指を結んで蓮華座上に結跏趺坐している。

両腕、前肘及び膝前は桧材で補修されており、頭上の化仏も桧材の後補である。本像は大きなものではないが、平安前期の特徴をよく備え、内割りがなく一木造りで量感に富みがちりとして堂々としている。1983（昭和58）年9月、県文化財保存課の指導で、奈良市の仏師中西盛士氏により光背・頭仏・台座などの修理を受けた。参考資料『月ヶ瀬村史』

所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

宗派：真言律宗 本尊：阿弥陀如来 本山：西大寺  
 「石打」という名前の由来は、戦国時代「石打城」という山城があり、攻め入る敵に石を投げ応戦したことによるという伝えがある。1581（天正9）年、伊賀の乱により村の代表的な寺であった「観音寺」が焼かれ、「阿弥陀寺」はその後に建立された(現本堂の西側後方)が、確かな建立年代を伝える記録は見当たらない。1973（昭和48）年保育園の移転に伴いその園庭を利用して、地域の方々、檀家の方々及び建設委員会のご尽力により、現在の「阿弥陀寺」（鉄筋コンクリート造）が建てられた。また、境内には県下で最古の旧月ヶ瀬村指定文化財に登録されている日待講板碑もある。参考資料『奈良市HP』『月ヶ瀬村史』『月ヶ瀬村石打史』